

河東碧梧桐 生誕150年
令和5年新春特別展



子規と河東家 — 碧梧桐を育んだ絆 —

令和4年12月24日(土)～令和5年1月30日(月)

休館日: 令和4年12月27日、令和5年1月10日・17日・24日(いずれも火曜日)

開館時間: 午前9時～午後5時(展示室入場は午後4時30分まで)

会場: 松山市立子規記念博物館 3階特別展示室

観覧料: 個人 200円 団体 160円 65歳以上 100円 高校生以下 無料

《ギャラリートーク》

日時: 令和4年12月25日(日)、令和5年1月8日(日)

ともに午前10時30分から50分程度

会場: 3階特別展示室 ※聴講には観覧券が必要

《学芸員による関連講座》

演題: 「少年・碧梧桐の苦闘と模索—当館所蔵の子規あて書簡から—」

日時: 令和5年1月29日(日) 午後2時から3時30分まで

会場: 1階視聴覚室 ※入場無料

※ギャラリートーク・関連講座は、新型コロナウイルス感染症の状況により、中止もしくは入場制限等の変更を行う場合があります。

松山市立子規記念博物館 TEL 089-931-5566 〒790-0857 松山市道後公園 1-30
<https://shiki-museum.com>

子規と河東家 - 碧梧桐を育んだ絆 -

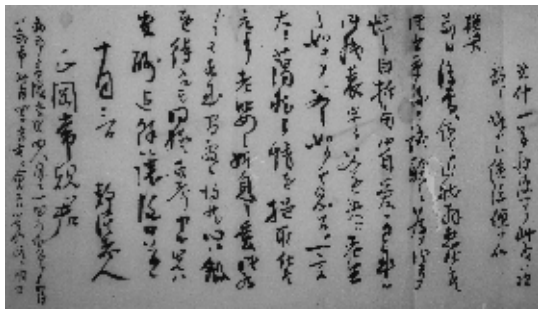
令和五年は、俳人・河東碧梧桐（一八七三〜一九三七）の生誕一五〇年です。碧梧桐と子規との繋がりは、碧梧桐の父の河東静溪や兄の竹村鍛、河東銓が子規と親しく交流する中で始まります。

河東静溪は松山藩屈指の漢学者で、明治維新後は私塾「千舟学舎」を開いて子弟教育に尽力します。子規は松山中学校時代、「五友」の友人たちと漢詩会を結成しますが、彼らに漢詩や漢学を指導したのは静溪でした。静溪は子規が上京したのちも我が子のように子規の健康や進路を気遣い、一方の子規も静溪を実の父親のように慕いました。

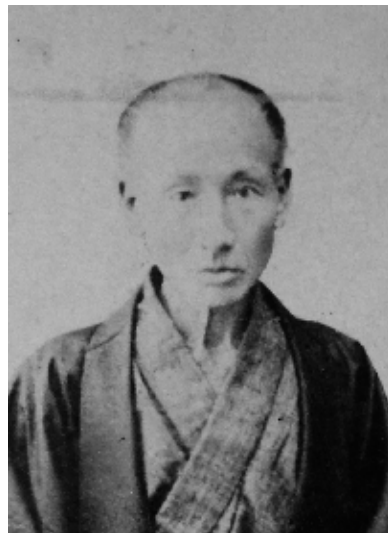
静溪の三男・竹村鍛は子規より二歳年上で、漢詩文に優れ、子規にとっては頼もしい兄のような存在でした。「五友」の一人として子規と漢詩作りに熱中した鍛は、上京して帝国大学文科大学に学び、子規らと漢詩や連句などの文学活動を活発に行います。また静溪の四男の河東銓も子規の親友で、若くして可全という俳号で子規に俳句を学びました。

そして静溪の五男が碧梧桐です。明治二十二年にベースボールをきっかけに子規と親しくなった碧梧桐は、以後、人生の先輩として子規に心酔し、俳句や小説について忌憚のない議論を子規と交わりました。京都三高、仙台二高と各地を転々とし進路に迷う碧梧桐を子規は親身になって指導し、やがて碧梧桐は子規門の気鋭の俳人へと成長します。鍛や銓は、碧梧桐の将来を心配しながらも、文学に邁進する弟と子規を信じ、二人の固い絆を温かく見守りました。静溪や鍛そして子規の死後、碧梧桐は「新傾向俳句」を唱えて斬新な作風で俳壇に一石を投じ、「三千里」の全国行脚で共鳴者を日本中に広げました。

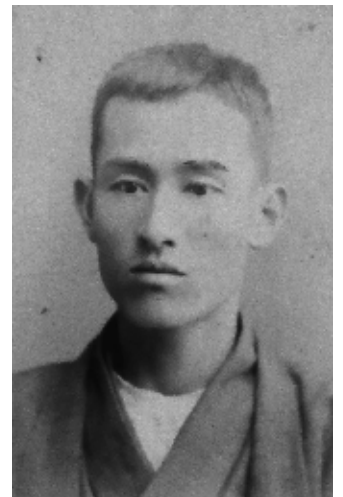
今回の特別展では、河東碧梧桐を新たな視点で顕彰するべく、河東静溪や竹村鍛らの子規との交流にもスポットを当て、碧梧桐と子規との家族ぐるみの交流や、その中から生まれた碧梧桐の活躍を、近年の新収蔵資料を交えながら紹介します。



河東静溪の子規あて書簡（明治24年10月3日）



河東静溪（碧梧桐の父）



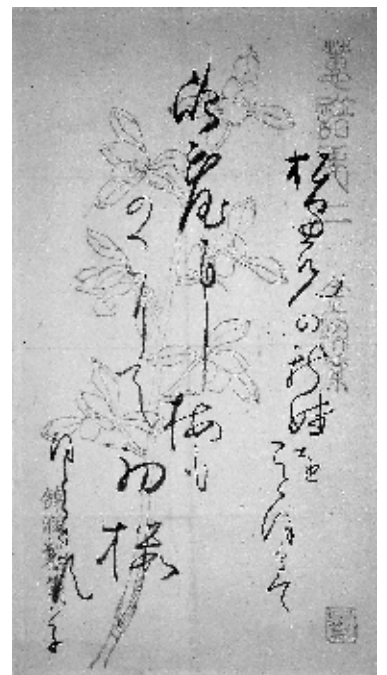
竹村鍛（碧梧桐の兄）



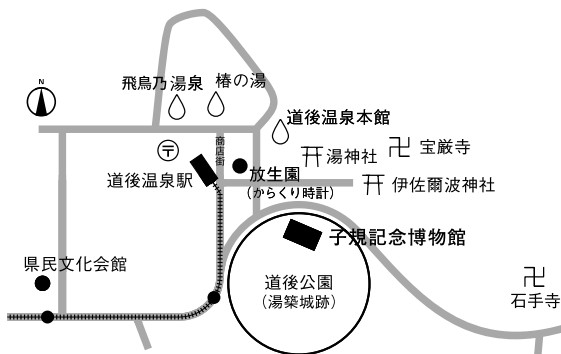
竹村鍛・河東銓・河東碧梧桐ほか集合写真（明治33年4月24日）



河東銓（碧梧桐の兄）



子規の竹村鍛あて書簡（明治26年4月）



道後温泉駅より徒歩約5分 / 道後公園駅より徒歩約5分 ※公共の交通機関をなるべくご利用ください

松山市立子規記念博物館

〒790-0857 松山市道後公園 1-30 TEL 089-931-5566 <https://shiki-museum.com>

